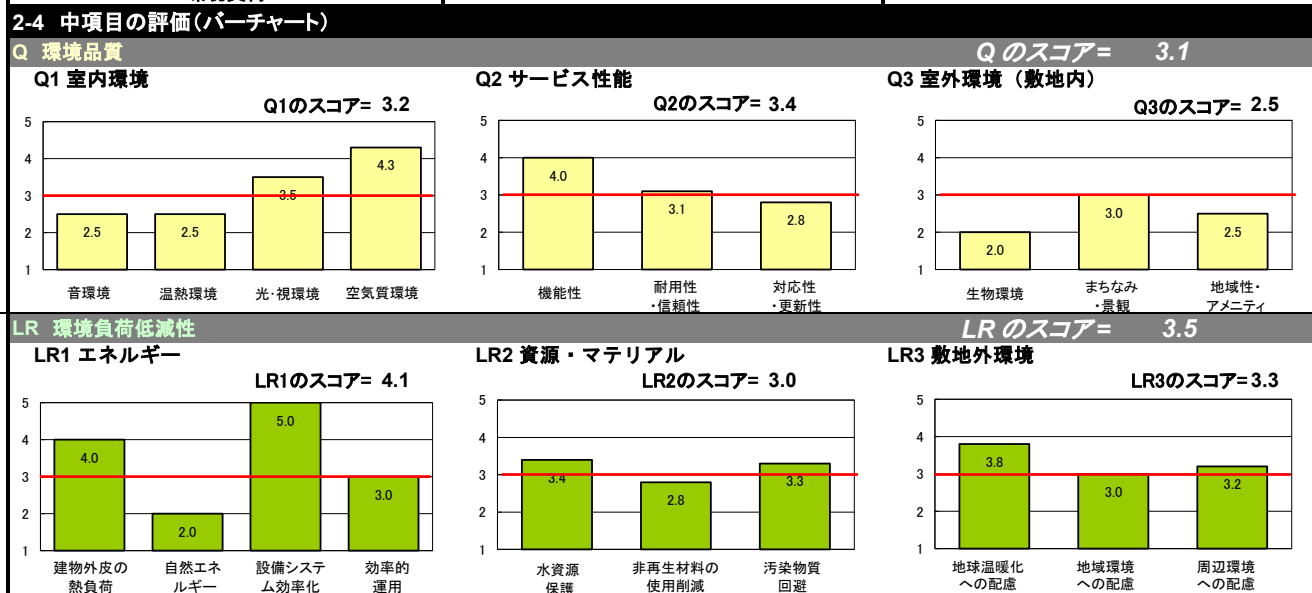
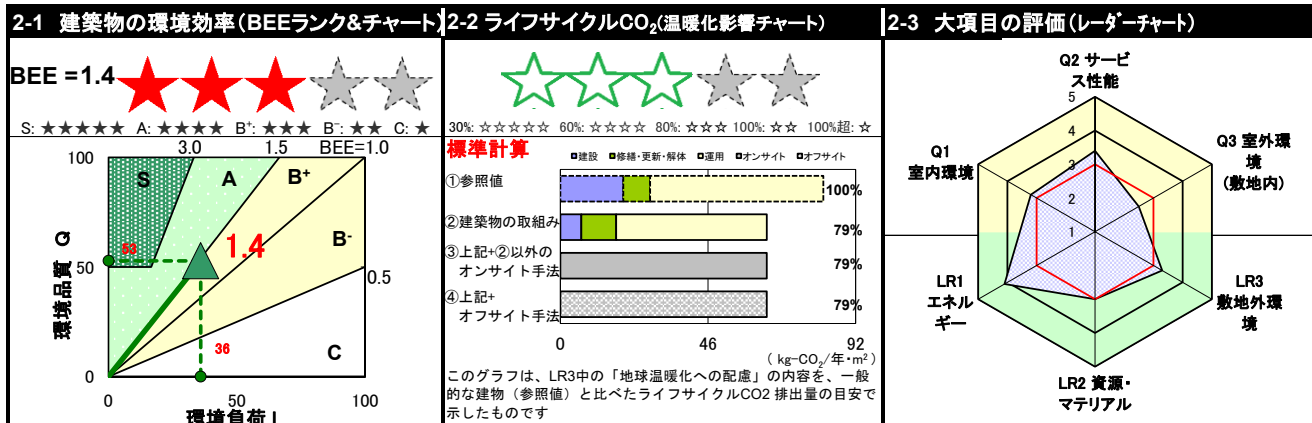


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)静省寮建替計画	階数	地上5F
建設地	名古屋市千種区新池町二丁目7番の一部	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年4月 予定	評価の実施日	2026年7月24日
敷地面積	2,605 m ²	作成者	
建築面積	1,093 m ²	確認日	2026年7月24日
延床面積	4,018 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 北側道路に面して周辺住環境に調和した植栽帯を設け、目隠し塀を設置し入口を1ヶ所に集約することで、居住者のプライバシー及び近隣へ配慮した計画とした。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 寮室について、全室南側に開口部を大きく確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級とし、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来るように努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	
注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 本棟を敷地南側に配置し、南側に植栽帯、北側にはプレイロットを設けることで緑に囲まれた豊かな居住空間となるように計画した。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 断熱性能、一次エネルギー消費量4等級を確保し、環境負荷の低減に努めた。	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型設備機器の導入や部材の再利用可能性の向上に努めた。また、有害物質を含む材料の不使用により、環境への配慮に努めた。
LR3 敷地外環境	
注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物隔隔距離を取ることで、日照・プライバシー等への配慮を行った。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)静省寮建替計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。